



Sun SPARC® Enterprise M4000/M5000 サーバー プロダクトノート

XCP 1071 版

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-4886-11
2008 年 7 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して米国 Sun Microsystems 社および富士通株式会社は、有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社およびサン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものではありません。本書は、富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または米国 Sun Microsystems 社へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、一般ユーザーからのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, Netra, Sun Ray, docs.sun.com, OpenBoot, Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標もしくは登録商標です。サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. 社および富士通株式会社が米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとに第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	<i>Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 Servers Product Notes for XCP Version 1071</i> Part No: 820-4294-11 Revision A
------------	--



Adobe PostScript

目次

はじめに	vii
Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバプロダクトノート	1
XCP 1071 の新着情報	1
サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン	2
WAN ブートサーバーの使用	2
Solaris パッチに関する情報	3
Solaris 10 8/07 と SPARC64 VII CPU を使用する場合は必須パッチ	3
Solaris 10 11/06 OS の必須パッチ	4
XCP 1071 へのアップグレード	5
OpenBoot PROM ファームウェアの更新	5
XCP 104 n からのアップグレード	5
一般的な機能の問題と制限	5
ハードウェアの取り付けおよび保守に関する問題	7
Sun Crypto Accelerator 6000 カード	7
U320 PCIe SCSI カード	7
ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題	8
XCP に関する問題と回避方法	8
Solaris OS に関する問題と回避方法	9
サポートされているすべてのリリースの Solaris に関する問題	9

Solaris 10 5/08 で修正された Solaris に関する問題	13
Solaris 10 8/07 で修正された Solaris に関する問題	17
Sun Management Center ソフトウェアに関する問題と回避方法	18
ソフトウェアドキュメントの変更予定	18
ソフトウェアの追加手順	21
WAN ブートサーバーからの起動	21
システム内の縮退メモリーの識別	22
▼ システム内の縮退メモリーを識別する	22
システムボード上の異なるメモリーサイズの識別	22
▼ showdevices コマンドを使用する	22
▼ prtdiag コマンドを使用してメモリーサイズを識別する	23
ターゲットボードの永続メモリーの識別	24
▼ ターゲットボードの永続メモリーを識別する	24
サーバーへの SPARC64 VII プロセッサの追加 – 保守担当者のみ	26
▼ 新しい SPARC64 VII CPU モジュールを新しいドメインとして追加する	27
既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサの追加	30
▼ 既存のドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する準備をする	30
▼ SPARC64 VI で構成されているドメインに、新しい SPARC64 VII CPU モジュールを追加する	32
▼ 既存のドメインで SPARC64 VI CPU モジュールを SPARC64 VII にアップグレードする	34

はじめに

本書では、Sun SPARC® Enterprise M4000/M5000 サーバーのハードウェア、ソフトウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報について説明します。

ソフトウェアリソース

Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 には、Solaris™ オペレーティングシステムおよび Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプリインストールされています。

Sun Java Enterprise Server

Sun Java Enterprise Server は、ソフトウェアへの投資を最大限に活用できる、ソフトウェアとライフサイクルサービスの包括的なセットです。概要およびドキュメントについては、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

注 – Java Enterprise System 5 Update 1 のインストール上の問題により (CR 6644798)、ご使用のシステムで WebConsole SMF サービスを有効にしなければならない場合があります。

▼ WebConsole SMF サービスを有効にする

- root として端末にログインし、次のコマンドを入力します。
`svcadm enable svc:/system/webconsole:console`

ソフトウェアの再ロードが必要になった場合は、次の Web サイトにアクセスして、ソフトウェアのダウンロードおよびインストールの手順を確認してください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

最新のソフトウェアをダウンロードした場合、そのソフトウェアには、ご使用のサーバーに必須のパッチが含まれていない可能性があります。ソフトウェアのインストール後、必須パッチについては [3 ページの「Solaris パッチに関する情報」](#)を確認し、必須パッチの確認方法およびインストール方法については [viii ページの「最新の Solaris パッチの入手」](#)を確認してください。

最新の Solaris パッチの入手

使用しているシステムに、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバー用の Solaris 必須パッチを事前にインストールしておく必要があります。使用しているバージョンの Solaris OS で必要なパッチの一覧については、[3 ページの「Solaris パッチに関する情報」](#)を参照してください。



注意 – Solaris 10 11/06 OS が動作している Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーでは、Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ 123003-03 および 124171-06 をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、必要に応じて <http://sunsolve.sun.com/> からダウンロードできます。これよりあとのバージョンの Solaris 10 OS が動作しているサーバーでは、これらのパッチは必要ありません。

Sun Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、最新の必須パッチセットでシステムを更新することができます。Sun Connection Update Manager の詳細は、次の Web サイトにある『Sun Update Connection System 1.0.8 管理ガイド』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-7283>

または、次の URL にアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

使用しているシステムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して最新の Solaris OS パッチを入手するには、次の 2 つの方法があります。

- [ix ページの「Update Manager GUI を使用したパッチの入手」](#)
- [x ページの「smpatch CLI を使用したパッチの入手」](#)

インストールに関する情報と README ファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。

Update Manager GUI を使用したパッチの入手

1. root で、次のいずれかの方法で Update Manager を起動します。
 - 「JDS Launch」メニューで、
「Launch」->「Applications」->「System Tools」->「Update Manager」の順に選択します。
 - 端末ウィンドウで、
`/usr/bin/updatesmanager` と入力します。
2. 登録を完了します。
 - すでに登録が完了している場合は、[手順 3](#)に進みます。
 - まだ登録が完了していない場合は、Update Manager によって登録手続きに進みます。画面上の指示に従います。

注 – Sun Connection Update Manager GUI で正常に登録できない場合は、コマンド行インタフェース (CLI) オプションを使用してパッチを入手してください。 [x ページ](#) の「[smpatch CLI を使用したパッチの入手](#)」を参照してください。

3. Update Manager の「Available」タブで、「Update Collection」ドロップダウンメニューを開き、「Sun SPARC(R) Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers」を選択します。
Update Manager がシステムを分析して、必要なパッチを判断します。
4. カーネルパッチが推奨される場合は、パッチ ID の左にあるボックスをクリックしてこのパッチ ID を選択してから、「Install」ボタンをクリックします。
パッチが `/var/sadm/spool` にダウンロードされます。

注 – カーネルパッチ (たとえば、パッチ 118833-xx など) のインストールには、特別な手順が必要です (詳細はパッチの README を参照)。多くの場合、カーネルパッチはダウンロードのみの (対話型) パッチで、手動でのインストールが必要になります。パッチセット内のほかのパッチをインストールするには、カーネルパッチを先にインストールする必要があります。

5. カーネルパッチの場合は、続けて次のように入力します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip patchid-xx.jar
```

6. 次のファイルに記載されているインストール手順を実行します。
`/var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xx`

7. `patchid-xx` のインストール後、`shutdown` コマンドを使用してシステムを再起動します。

`reboot` コマンドでは、再起動を必要とするパッチのインストールが完了しません。このコマンドではなく、Update Manager または `shutdown` コマンドを使用する必要があります。

```
# shutdown -i6
```

8. Update Manager をふたたび起動して、手順 3 と同じコレクションメニューを再度選択します。
9. Update Manager が新たな分析を自動的に開始しない場合は、「Check for Updates」ボタンをクリックします。
10. パッチ ID の左にあるボックスをチェックして、一覧に表示されているパッチを選択します。
11. 「Install」ボタンをクリックします。
12. いずれかのパッチでシステムの再起動が必要な場合は、手順 7 の手順を実行します。

再起動を必要とするパッチがインストールされた場合、Update Manager によってシステムの再起動が行われます。または、手順 7 で説明したように、`shutdown` コマンドを使用できます。再起動を必要とするパッチの場合は、インストールを有効にするために再起動が必要です。

これでパッチのインストールが完了しました。

smpatch CLI を使用したパッチの入手

1. `/usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties` ファイルを `/tmp` ディレクトリにコピーします。
2. `/tmp/RegistrationProfile.properties` ファイルを編集して、ユーザー名およびパスワードと、必要に応じてネットワークプロキシおよびポートを追加します。

注 – ユーザー名およびパスワードは、Sun オンラインアカウントです。アカウントを作成するには、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスしてください。

3. 次のコマンドを入力して、システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. 次のコマンドを入力して、使用しているシステムに適切なパッチを入手します。

```
# smpatch set patchpro.patchset=sem4k5k8k9k
```

5. カーネルパッチをすべてインストールします。

118833-xx などのカーネルパッチは Sun Connection Update Manager を介してダウンロードできます。

- a. 次のように入力して、`/var/sadm/spool` ディレクトリにパッチをダウンロードします。

```
# smpatch update -i patchid-xx
```

- b. 次のように入力して、パッチを解凍します。

```
# cd /var/sadm/spool  
# unzip patchid-xx.jar
```

- c. `/var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xx` ファイルに記載されているインストール手順に従って、パッチをインストールします。

6. カーネルパッチのインストール後、`shutdown` コマンドを使用してシステムを再起動します。

`reboot` コマンドでは、再起動を必要とするパッチのインストールが完了しません。このコマンドではなく、Update Manager または `shutdown` コマンドを使用する必要があります。

```
# shutdown -i6
```

7. 次のコマンドを入力して、インストールするパッチの一覧を表示します。

```
# smpatch analyse
```

8. 次のコマンドを入力して、パッチをダウンロードおよびインストールします。

```
# smpatch update
```

9. いずれかのパッチでシステムの再起動が必要な場合は、[手順 6](#) を参照します。

再起動を必要とするパッチがインストールされた場合、Update Manager によってシステムの再起動が行われます。または、[手順 6](#) で説明したように、shutdown コマンドを使用できます。再起動を必要とするパッチの場合は、インストールを有効にするために再起動が必要です。

これでパッチのインストールが完了しました。

追加情報

詳細情報については、使用しているバージョンの Solaris OS のリリースノートを参照するか、次の URL から入手してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m5k?l=ja>

マニュアルへのアクセス

Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 の設置、管理、および使用に関する手順は、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 のドキュメントセットに記載されています。次の Web サイトから、ドキュメントセット全体をダウンロードして入手できます。

- SPARC Enterprise M4000:
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m4k?l=ja>
- SPARC Enterprise M5000:
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m5k?l=ja>

注 – 本書に記載されている情報は、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 のドキュメントセットの情報よりも優先されます。

Solaris 10 オペレーティングシステム (Solaris OS) のドキュメントは、次の URL から入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun SPARC® Enterprise M4000/M5000 サーバープロダクトノート』、Part No. 820-4886-11

Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバー プロダクトノート

本書は、次の内容を含んでいます。

- 1 ページの「[XCP 1071 の新着情報](#)」
- 2 ページの「[サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン](#)」
- 3 ページの「[Solaris パッチに関する情報](#)」
- 5 ページの「[XCP 1071 へのアップグレード](#)」
- 5 ページの「[一般的な機能の問題と制限](#)」
- 7 ページの「[ハードウェアの取り付けおよび保守に関する問題](#)」
- 8 ページの「[ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題](#)」
- 18 ページの「[ソフトウェアドキュメントの変更予定](#)」
- 21 ページの「[ソフトウェアの追加手順](#)」
- 26 ページの「[サーバーへの SPARC64 VII プロセッサの追加 – 保守担当者のみ](#)」

XCP 1071 の新着情報

XCP Version 1071 では、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバー上で SPARC64™ VII プロセッサがサポートされています。

SPARC64 VII プロセッサの取り付け方法については、[26 ページの「サーバーへの SPARC64 VII プロセッサの追加 – 保守担当者のみ」](#)を参照してください。取り付けを実行できるのは認定された保守担当者のみです。

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

表 1 に、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーでサポートされているソフトウェアおよびファームウェアの最小必須バージョンを示します。以前のバージョンの XCP ファームウェアからアップグレードする場合は、[5 ページの「XCP 1071 へのアップグレード」](#)も参照してください。

表 1 ソフトウェアおよびファームウェアの最小バージョン

ソフトウェアまたはファームウェア	バージョン
XSCF Control Package Capacity on Demand (COD) サポート: XCP 1050	
Solaris オペレーティングシステム	Solaris 10 11/06 (必須パッチ適用済み)*、 または Solaris 10 8/07 (必須パッチ適用済み)*

* パッチの詳細は、[3 ページの「Solaris パッチに関する情報」](#)を参照してください。

表 2 に、XSCF Web で使用する Web ブラウザの最小サポートバージョンを示します。

表 2 Web ブラウザの最小バージョン

Web ブラウザアプリケーション	バージョン
Firefox	2.0
Microsoft Internet Explorer	6.0
Mozilla	1.7
Netscape Navigator	7.1

WAN ブートサーバーの使用

ネットワーク上の Solaris WAN ブートサーバーから Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーを起動する場合は、適切な wanboot 実行可能ファイルをインストールして必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。詳細は、[21 ページの「WAN ブートサーバーからの起動」](#)を参照してください。

Solaris パッチに関する情報

次の場合は、Solaris パッチが必要になります。

- SPARC64 VII CPU を搭載し、Solaris 10 8/07 が動作する SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバー
- Solaris 10 11/06 OS が動作するすべての SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバー

パッチの README を必ず参照して、パッチの要件とインストールの特別な手順について確認してください。

この節で示すパッチ ID は、インストールする必要があるパッチの最小レベルを示しています。下 2 桁は、パッチの最小バージョンを示します。

最新のパッチリビジョンは <http://sunsolve.sun.com> で確認し、最新のパッチの検出方法と一般的なインストール手順については [viii ページの「最新の Solaris パッチの入手」](#) を参照してください。

Solaris 10 8/07 と SPARC64 VII CPU を使用する 場合の必須パッチ

次のパッチは、SPARC64 VII CPU を搭載したサーバー上の Solaris 10 8/07 OS に対してのみ必要です。次に示す順序でインストールしてください。

1. 119254-51 – SunOS 5.10: インストールおよびパッチユーティリティーパッチ
2. 125891-01 – SunOS 5.10: lib_psr_hwcap.so.1 パッチ
3. 127755-01 – SunOS 5.10: Fault Manager パッチ
4. 127127-11 – SunOS 5.10: カーネルパッチ

また、次の 2 つの節に示す PCI-E または PCI-X カードのいずれかを使用する場合は、追加のパッチもインストールする必要があります。

Emulex PCI-E および PCI-X カードのパッチ

次の Emulex カードには、パッチ 120222-26 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA (パーツ SG-XPCIE2FC-EM4)

- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA (パーツ SG-XPCIE1FC-EM4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBA (パーツ SG-XPCI2FC-EM4-Z)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA (パーツ SG-XPCI1FC-EM4-Z)

QLogic PCI-E および PCI-X カードのパッチ

次の QLogic カードには、パッチ 125166-10 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA (パーツ SG-XPCIE2FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA (パーツ SG-XPCIE1FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBA (パーツ SG-XPCI2FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA (パーツ SG-XPCI1FC-QF4)

Solaris 10 11/06 OS の必須パッチ

Solaris 10 11/06 OS には、次のパッチが必要です。これらの必須パッチを適用しても、Solaris 10 11/06 では SPARC64 VII プロセッサはサポートされません。次に示す順序でパッチをインストールしてください。

1. 118833-36: ドメインを再起動してから次の手順に進んでください。
2. 125100-10: その他のパッチ要件の一覧については、パッチの README ファイルを参照してください。
3. 123839-07
4. 120068-03
5. 125424-01
6. 118918-24
7. 120222-21
8. 125127-01: ドメインを再起動してから次の手順に進んでください。
9. 125670-02
10. 125166-05

XCP 1071 へのアップグレード

XCP version 1050 以降から、XCP 1071 にアップグレードすることができます。手順については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

OpenBoot PROM ファームウェアの更新

OpenBoot™ PROM (OBP) ファームウェアを更新完了の状態にするには、対象とするドメインを必ず再起動してください。更新が完了したら、できるだけ早くドメインを再起動する必要があります。

XCP 104*n* からのアップグレード

XCP 1050 より前のバージョンが現在動作している場合は、まず中間のバージョンである 1050 ~ 1070 (1070 を含む) の XCP にアップグレードしてから、XCP 1071 にアップグレードする必要があります。手順については、対象とする中間バージョンのプロダクトノートを参照してください。

一般的な機能の問題と制限

ここでは、本リリース時点でわかっているハードウェアおよびソフトウェアの問題について説明します。



注意 – 動的再構成 (DR) およびホットプラグに関する問題については、[9 ページの「Solaris OS に関する問題と回避方法」](#)を参照してください。

注 – 分電盤のメインラインスイッチまたは回路遮断機によってシステムの電源を再投入する場合は、電源を切断したあと 30 秒以上待ってから電源を投入してください。

- ドメインで次のいずれかのバージョンの Solaris OS が動作している場合は、対処が必要です。
 - Solaris 10 5/08 OS

- これより前のバージョンの Solaris 10 OS で、パッチ ID 127127-11 が適用されたもの

この場合、システム仕様ファイル (/etc/system) に次のパラメータを設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

そのあと、ドメインを再起動します。

詳細は、表 5 の CR 6718173 を参照してください。

- PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP カード (1027A-Z/X1027A-Z) には、下記の制限が適用されます。
 - 各ドメインで、カードを 3 枚以上使用することはできません。
 - PCI ボックスで、これらのカードを使用することはできません。
- PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カード (4447A-Z/X4447A-Z) には、下記の上限が適用されます。
 - PCI ボックス内で、カードを 5 枚以上使用することはできません (PCIe I/O ポート 1 台あたり 2 枚)。
 - Sun SPARC Enterprise M4000 サーバードメイン内で、カードを 5 枚以上使用することはできません。
 - Sun SPARC Enterprise M5000 サーバードメイン内で、カードを 9 枚以上使用することはできません。
- Solaris OS がシングルユーザーモードの場合、ドメインコンソールから XSCF シェルに移行しないでください。Solaris OS がマルチユーザーモードに切り替わることがあります。
- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットを同時に使用しないでください。
- XSCF ブラウザインタフェース (XSCF Web) は、PCI ボックス管理機能をサポートしていません。
- PCI ボックスを使用してホストサーバーを外部ブートディスクドライブに接続することは、サポートされていません。
- 次の語は XSCF ファームウェアによりシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。adm、admin、apache、bin、daemon、default、ldap、nobody、ntp、operator、root、rpc、rpcuser、および sshd
- Service Processor (SP) を Network Time Protocol (NTP) サーバーとして使用しないでください。独立した NTP サーバーを使用することによって、SP とドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細は、Sun Blueprint のドキュメント『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks』(<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>) を参照してください。

ハードウェアの取り付けおよび保守に関する問題

表 3 に、障害変更要求 ID が割り当てられている既知の問題を示します。また、これらの問題に対して実行可能な回避方法も示します。これらの問題を修正する新規パッチが入手可能かどうかを確認するには、次のサイトにアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

表 3 ハードウェアに関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6433420	起動中に、ドメインコンソールがメールボックスタイムアウトまたは IOCB 割り込みタイムアウトのエラーを表示することがあります。	OBP (OK) プロンプトから <code>reset-all</code> コマンドを発行し、再起動してください。

Sun Crypto Accelerator 6000 カード

適切なバージョンの Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードドライバを使用していない場合、SCA 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーでパニックまたはハングアップが発生する可能性があります。必要な bootstrap ファームウェアをアップグレードしたあと、Version 1.1 の SCA6000 ドライバおよびファームウェアでホットプラグ操作がサポートされます。SCA6000 ドライバの Version 1.0 はホットプラグをサポートしていないため、使用しないでください。

U320 PCIe SCSI カード

U320 PCIe SCSI カード (パーツ番号 375-3357-01/02) は、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーの PCI カセットではサポートされていません。ユーザーは 375-3357-03 以降を使用してください。

ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアに関する問題とその回避方法について説明します。パッチを入手するには、またこれらの問題を修正する新規パッチが入手可能かどうかを確認するには、次のサイトにアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

XCP に関する問題と回避方法

表 4 に、XCP に関する問題と、これらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 4 XCP に関する問題と回避方法 (1 / 2)

ID	説明	回避方法
6565422	showarchiving の Latest communication フィールドが定期的に更新されません。	archiving をいったん無効にしてからふたたび有効にすると、showarchiving の出力の Latest communication フィールドが更新されます。
6624646	Sun Connection Update Manager GUI で正常に登録できない場合があります。	GUI の登録に関する問題が発生した場合は、コマンド行インタフェース (CLI) を使用してください。
6664134	サービスプロセッサで検出される特定の障害は、XSCF コマンドの fmadm faulty で報告されず、このような障害はドメインに ereport として渡されることもありません。	代わりに XSCF コマンドの showstatus または fmdump を使用してください。
6674742	多くの障害が発生してシステムに負荷がかかると、サービスプロセッサの fmd プロセスがハングアップする場合があります。いったんこれが発生すると、サービスプロセッサで fma コマンドが失敗またはハングアップする可能性があります。	XSCF コマンドの rebootxscf を使用してサービスプロセッサを再起動します。

表 4 XCP に関する問題と回避方法 (2 / 2)

ID	説明	回避方法
6665174	<p>XSCF の <code>deleteboard(8)</code> コマンドおよび <code>addboard(8)</code> コマンドを使用して動的再構成操作を行うと、I/O チャンネル縮退が確認され、エラーメッセージが表示され、関連する <code>ereport</code> にエントリが登録されることがあります。</p> <p>この問題が発生した場合は、<code>fmdump(8)</code> コマンドによって次のエラーが表示されます。</p> <pre>ereport.chassis.SPARCEnterprise.asic.ioc.ch.leaf.fe</pre>	<p>認定された保守担当者は、さらに診断を行うか、またはこのエラーをクリアすることができます。</p>
6675409	<p>COD ボードで DR 操作の実行中に COD ライセンスキャパシティが変更されると、一部の COD CPU が <code>Faulted</code> とマークされることがあります。</p> <p>この場合は、保守対応によって修正する必要があります。</p>	<p>COD ボードでの DR 操作の実行中には、COD ライセンスキャパシティを変更しないでください。</p> <p>COD ライセンスキャパシティは、ライセンスを追加または削除 (<code>addcodlicense</code> または <code>deletecodlicense</code> コマンドを使用) したり、ヘッドルームを変更 (<code>setcod</code> コマンドを使用) したりすることで変更されます。DR 操作の実行中は、これらのコマンド (または同等のブラウザ操作) を使用しないでください。COD ライセンスキャパシティは、DR 操作の完了後に変更できます。</p>
6679286	<p><code>setsnmpusm passwd</code> コマンドでパスワードを設定する場合に、8 文字未満でパスワードを設定すると、セグメント例外が発生します。</p>	<p>パスワードは常に 8 文字以上で設定してください。</p>

Solaris OS に関する問題と回避方法

ここでは、Solaris OS に関する問題について説明します。表 5、表 6、および表 7 に、使用する Solaris OS のリリースに応じて、発生する可能性のある問題を示します。

サポートされているすべてのリリースの Solaris に関する問題

表 5 に、Solaris OS のサポートされているすべてのリリースで発生する可能性のある Solaris OS に関する問題を示します。

表 5 サポートされているすべてのリリースでの Solaris OS に関する問題と回避方法 (1 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6459540	DAT72 内蔵テープドライブがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。 また、このデバイスがシステムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	次の定義を、/kernel/drv/st.conf に追加してください。 <pre>tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3;</pre> SEAGATE DAT と DAT72-000 の間には、4 つの半角スペースがあります。
6511374	エラーが多すぎてメモリーバンクが使用不可になった場合に、起動中にメモリー変換の警告メッセージが表示されることがあります。	システムの再起動後に、 <code>fmadm repair</code> コマンドを使用して、次回の起動時に問題が再現しないようにできます。
6522017	ZFS ファイルシステムを使用しているドメインでは、DR を使用できません。	ZFS ARC の最大サイズを小さくしてください。詳細は、ご購入先にお問い合わせください。
6531036	boot net インストール後、network initialization failed のエラーメッセージが繰り返し表示されることがあります。	有効な回避方法はありません。
6533686	システムリソースで XSCF が少ない場合、永続メモリーを再配置する DR の deleteboard または moveboard 操作が、次の 1 つまたは複数のエラーを表示して失敗することがあります。 SCF busy DR parallel copy timeout これは、複数のドメインのホストである Quad-XSB が構成されたシステムボードの場合にのみ当てはまります。	あとで、DR 操作をやり直してください。
6572827	Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 プラットフォームの <code>prtdiag -v</code> の出力の IO Devices セクションに「Type」という列があります。ここには各デバイスに対して「PCIe」、 「PCIx」、 「PCI」、 「UNKN」のいずれかが表示されます。これらの値を処理するためのアルゴリズムに誤りがあります。PCI-X リーフデバイスには「PCI」、古い PCI デバイスには「UNKN」と表示されます。	有効な回避方法はありません。

表 5 サポートされているすべてのリリースでの Solaris OS に関する問題と回避方法 (2 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6588555	永続メモリーでの DR 操作中に XSCF をリセットすると、ドメインでパニックが発生することがあります。	DR 操作中に XSCF リセットを開始しないでください。DR 操作が完了してからリセットを開始してください。
6589833	DR addboard コマンドを使用し、Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HB A カード (SG-XPCIE2FC-QF4) の追加を、SAP プロセスがこのカードに取り付けられているストレージデバイスにアクセスを試みるのと同じタイミングで行おうとすると、システムのハングアップを引き起こすことがあります。次のカードが、情報量の多いネットワークトラフィック上で使用されていると、システムハング発生の可能性が高まります。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	有効な回避方法はありません。
6592302	DR 操作が正常に終了しなかった場合は、一部のメモリーが組み込まれたままになることがあります。	addboard -d コマンドを使用してボードをドメインに戻すと、復旧する可能性があります。
6608404	スロット 1 で PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (X4447A-Z) カードのホットプラグ操作を行うと、その他のネットワークデバイスで障害が発生する場合があります。	この障害を回避するため、このカードをスロット 1 に取り付けないでください。
6614737	次の条件下において、DR の deleteboard(8) および moveboard(8) 操作がハングアップすることがあります。 DIMM が縮退している場合 ドメインにメモリーサイズが異なるシステムボードが存在する場合	次の条件に該当する場合は、DR 操作をしないでください。 <ul style="list-style-type: none"> • 縮退メモリー: システムのメモリーが縮退しているかどうかについては、XSCF の showstatus コマンドで確認できます。出力例は、22 ページの「システム内の縮退メモリーの識別」で参照してください。 • メモリーサイズが異なる: ドメイン内のシステムボード間で搭載メモリーサイズが異なっているかどうかは、XSCF の showdevices コマンド、またはドメインの prtdiag コマンドを使用して、メモリーサイズのリストを表示して確認できます。出力例は、22 ページの「システムボード上の異なるメモリーサイズの識別」で参照してください。 DR コマンドがハングアップした場合は、ドメインを再起動して復旧してください。

表 5 サポートされているすべてのリリースでの Solaris OS に関する問題と回避方法 (3 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6619344	Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードをホットプラグ操作でスロット 1 に構成すると、動作しない場合があります。	この障害を回避するため、このカードをホットプラグ操作でスロット 1 に取り付けないでください。
6625734	シングルドメイン環境下で、多数のプロセッサが搭載されているシステムでは、一定の作業負荷がかかるとパフォーマンスが低下することがあります。	アプリケーションプロセスをバインドする場合はプロセッサセットを使用するか、プロセッサをグループ化させるために LWP を使用してください。詳細は、psrset(1M) のマニュアルページを参照してください。
6623226	Solaris の lockstat(1M) コマンドまたは dtrace lockstat プロバイダを実行すると、システムパニックが発生することがあります。	Solaris の lockstat(1M) コマンドまたは dtrace lockstat プロバイダを使用しないでください。
6632549	DR 操作後に、ドメインの fmd サービスが失敗して保守モードになることがあります。	fmd サービスが失敗したときは、ドメインで次のコマンドを実行して復旧してください。 # svcadm clear fmd
6660168	ドメイン上で ubc.piowbeue-cpu エラーが発生すると Solaris Fault Management cpumem-diagnosis モジュールが失敗し、FMA サービスが中断されることがあります。 これが発生すると、コンソールログに次のように出力されます。 SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use fmdump -v -u <EVENT-ID> to locate the module. Use fmadm reset <module> to reset the module.	fmd サービスに障害が発生したときは、ドメインで次のコマンドを実行して回復してください。 # svcadm clear fmd その後、cpumem-diagnosis を再起動します。 # fmadm restart cpumem-diagnosis
6660197	256 個を超えるメモリーエラーが検出されると、DR によってドメインがハングアップする場合があります。	次の手順を実行してください。 1. システム仕様ファイル (/etc/system) に次のパラメータを設定します。 set drmach:drmach_disable_mcopy=1 2. ドメインを再起動します。

表 5 サポートされているすべてのリリースでの Solaris OS に関する問題と回避方法 (4 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6663570	最小番号の CPU に関する DR 操作によって、ドメインでパニックが発生することがあります。	DR を使用して、最小の CPU ID を持つ CPU のホストであるシステムボードを切り離さないでください。最小の CPU ID を持つ CPU を識別するには、Solaris の prtdiag コマンドを使用します。
6668237	DIMM の交換後に、対応する DIMM 障害がドメインでクリアされません。	修復を記録するには、 <code>fmadm repair fmri uuid</code> コマンドを使用します。そのあと、 <code>fmadm rotate</code> コマンドを使用すると、残りのイベントすべてをクリアできます。
6718173	ドメインで次のいずれかのバージョンの Solaris OS が動作している場合は、システムで正常動作中にパニックまたはトラップが発生することがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • Solaris 10 5/08 OS • これより前のバージョンの Solaris 10 OS で、パッチ ID 127127-11 が適用されたもの 	システム仕様ファイル (<code>/etc/system</code>) に次のパラメータを設定します。 <code>set heaplp_use_stlb=0</code> そのあと、ドメインを再起動します。

Solaris 10 5/08 で修正された Solaris に関する問題

表 6 に、Solaris 10 5/08 OS で修正された問題を示します。この問題は、Solaris 10 5/08 より前のサポートされているリリースで発生することがあります。

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS に関する問題と回避方法 (1 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6348554	次のカード上で <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、コマンドがハンガアップすることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA • SG-XPCIE1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA • SG-XPCI2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBA • SG-XPCI1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA 	これらのカードに対して、 <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを実行しないでください。

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS に関する問題と回避方法 (2 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6472153	Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 sun4u サーバー以外のサーバー上に Solaris フラッシュアーカイブを作成し、それを Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 sun4u サーバーにインストールすると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。その結果、負荷の高いときにコンソールに文字が表示されないことがあります。	<p>Solaris フラッシュアーカイブから Solaris OS をインストールした直後に Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーに telnet で入り、コンソールの TTY フラグを次のようにリセットします。</p> <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre> <p>この作業は 1 回だけ実行してください。</p>
6522433	再起動後の CPU 障害によって、fmdump が正しいマザーボードを識別できないことがあります。	現時点で回避方法はありません。
6527811	PCI カードを搭載した PCI ボックスを PCI ホットプラグで追加した場合、PCI ボックス内の PCI カードの情報が XSCF の showhardconf(8) コマンドで表示されません。	有効な回避方法はありません。PCI ボックス内の各 PCI カードが PCI ホットプラグを使用して設定されていれば、PCI カード情報は正しく表示されます。
6545143	まれに、ユーザースタックアドレスの TLB ミスのトラップ処理中にシステムパニックが発生することがあります。この問題は、フラッシュウィンドウトラップ (ta 3) を実行するユーザープロセスと同時に、ユーザースタックの対応付けが解除される場合に発生する可能性があります。パニックメッセージには、次の文字列が含まれています。 bad kernel MMU trap at TL 2	有効な回避方法はありません。
6545685	電源投入時自己診断 (POST) で修正可能なメモリーエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4 DIMM または 8 DIMM に縮退することがあります。	<p>/etc/system の次の設定で使用されるメモリー巡回タイムアウト値を増やし、システムを再起動してください。</p> <pre>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000</pre>
6546188	次のカード上でホットプラグ (cfgadm) および DR 操作 (addboard および deleteboard) を実行すると、システムでパニックが発生します。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	有効な回避方法はありません。

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS に関する問題と回避方法 (3 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6551356	<p>これまで未設定だったカードを設定するためにホットプラグ (cfgadm) を実行すると、システムのパニックが発生します。システムでパニックが発生する直前に、「WARNING:PCI Expansion ROM is not accessible」というメッセージがコンソール上に表示されます。この不具合によって、次のカードが影響を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>注 - I/O カードの取り外しには、<code>cfgadm -c unconfigure</code> を使用しないでください。カードを完全に取り外すには、<code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用してください。10 秒以上待ったあと、<code>cfgadm -c configure</code> コマンドを使用して、カードを元のドメインに設定することができます。</p>
6556742	<p>DR 中、DiskSuite が <code>metadb</code> を読めないときに、システムのパニックが発生します。このバグは、次のカードに影響します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-QF4、4Gb PCI-e Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCIE1FC-QF4、4Gb PCI-e Single-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI2FC-QF4、4Gb PCI-X Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI1FC-QF4、4Gb PCI-X Single-Port Fibre Channel HBA 	<p><code>metadb</code> の複製データに別のホストバスアダプタ経由でアクセス可能であれば、パニックは回避できます。</p>
6559504	<p>次のカードを使用すると、コンソール上に、<code>nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn</code> という形式のメッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>このメッセージは無視しても差し支えありません。</p>
6563785	<p>次のカードの接続を解除したあと、すぐに再接続すると、ホットプラグ操作が失敗する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA • SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA 	<p>カードの接続を解除したあと、2、3 秒待ってから再接続してください。</p>

表 6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS に関する問題と回避方法 (4 / 4)

CR ID	説明	回避方法
6564934	<p>次のネットワークカードを使用している場合、永続メモリーを含むボードに対して DR の deleteboard 操作を実行すると、接続が壊れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>DR 操作が完了したら、影響するネットワークインタフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順については、ifconfig のマニュアルページを参照してください。</p>
6568417	<p>CPU の deleteboard DR 操作が正常終了後、次のネットワークインタフェースの使用中に、システムのパニックが発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に次の行を追加し、システムを再起動してください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>
6571370	<p>研究所でのストレステストで、次のカードを使用した際にデータ破壊が発生する場合があったことが観測されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z、PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1、PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に次の 1 行を追加して、システムを再起動してください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>
6589546	<p>prtdiag コマンドは、次のカードに対して、すべての I/O デバイスを表示しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA • SG-XPCIE1FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA 	<p>すべてを出力する場合は、prtdiag -v コマンドを使用してください。</p>

Solaris 10 8/07 で修正された Solaris に関する問題

表 7 に、Solaris 10 8/07 OS で修正された問題を示します。この問題は Solaris 10 11/06 でも発生することがあります。



注意 – Solaris 10 8/07 より前のバージョンの Solaris が動作している場合、通常の操作中にシステムでパニックまたはトラップが発生することがあります。詳細は、表 7 の CR ID 6534471 を参照してください。

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS に関する問題と回避方法 (1 / 2)

CR ID	説明	回避方法
6495303	Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーの IOU スロット 1 で PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を使用すると、システムパニックが発生する場合があります。	このカードは IOU スロット 1 では使用しないでください。
6498283	ドメインで psradm を操作中に DR の deleteboard コマンドを使用すると、システムのパニックが発生することがあります。	有効な回避方法はありません。
6508432	疑わしい PCIe Correctable エラー (CE) が、FMA エラーログに大量に記録されることがあります。	このようなエラーをマスクするには、 /etc/system に次のエントリを追加し、システムを再起動してください。 <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</pre>
6510861	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を使用している場合、PCIe Correctable エラー (CE) が発生するとパニックが発生します。	この問題を回避するには、次のエントリを /etc/system に追加してください。 <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1</pre>
6520990	ドメインが再起動すると、SCF が同じ物理ボードを共有している他のドメインにサービスを提供できないことがあります。DR 操作がデフォルトのタイムアウト時間を超え、パニックが発生する可能性があります。	次のステートメントを /etc/system に設定して DR タイムアウト時間を増やし、システムを再起動します。 <pre>set drmach:fmem_timeout = 30</pre>
6530178	DR の addboard コマンドがハングアップする場合があります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。復旧にはドメインの再起動が必要です。	有効な回避方法はありません。
6534471	通常の操作中に、システムのパニックまたはトラップが発生することがあります。	次の /etc/system パラメータが正しいことを確認し、システムを再起動します。 <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre>

表 7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS に関する問題と回避方法 (2 / 2)

CR ID	説明	回避方法
6539084	ドメインに Sun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) カードが存在する場合は、再起動中にドメインパニックが発生する可能性が低くなります。	これはパッチ 125670-01 で修正されました。
6539909	boot net install コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに次の I/O カードを使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z、PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z、PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	代替のネットワークカードまたはオンボードネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Solaris OS をインストールしてください。

Sun Management Center ソフトウェアに関する問題と回避方法

表 8 に、Sun Management Center ソフトウェアに関する問題と、実行可能な回避方法を示します。

表 8 Sun Management Center に関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6654948	PlatAdmin System Components テーブルを表示するときに、アラームが表示されるまでに、約 26 分の遅延が発生することがあります。単に遅れるだけで、実際のエラーではありません。	有効な回避方法はありません。

ソフトウェアドキュメントの変更予定

ここでは、出版後にわかった最新のソフトウェアドキュメントに関する情報やドキュメントの変更予定を示します。

表 9 ソフトウェアドキュメントの変更予定 (1 / 3)

ドキュメント	ページ	変更内容
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers Glossary』		SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーに対応するドキュメントそれぞれに含まれている用語集は、これらのドキュメントから削除されました。これに代わり、別のドキュメントとして『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers Glossary』が作成されました。
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』	9-5 ページ	9.2.2 節「サポートブラウザ」XSCF Web でサポートされる Web ブラウザの正しいリストについては、表 2 を参照してください。
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』	2-2 ページ	<p>2.1.1 節「XSCF シェルを使つてのセットアップの概要」。次の注を追加します。</p> <p>注 - 標準的なデフォルトのログインのほかに、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーでは、<code>admin</code> と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。その権限は <code>useradm</code> に固定されていて、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名/パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 <code>admin</code> としてログインすることはできません。このログインにパスワードはなく、またパスワードをこのログイン用に追加することもできません。</p> <p>デフォルトのユーザーとしてログインしたあとや、一時 <code>admin</code> としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録されたあとには、一時 <code>admin</code> アカウントは無効となります。</p> <p>デフォルトのログインが使用される前に一時 <code>admin</code> としてログインできない場合には、次のコマンドを実行することにより、他の誰かが前述の操作を実行していないか確認してください。</p> <pre>showuser -l</pre>

表 9 ソフトウェアドキュメントの変更予定 (2 / 3)

ドキュメント	ページ	変更内容
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーアドミニストレーションガイド』	2-1 ページ	<p>「システムへのログイン」の節。次の注を追加します。</p> <p>注 - 標準的なデフォルトのログインのほかに、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーでは、<code>admin</code> と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。その権限は <code>useradm</code> に固定されていて、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名/パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 <code>admin</code> としてログインすることはできません。このログインにパスワードはなく、またパスワードをこのログイン用に追加することもできません。</p> <p>デフォルトのユーザーとしてログインしたあとや、一時 <code>admin</code> としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録されたあとには、一時 <code>admin</code> アカウントは無効となります。</p> <p>デフォルトのログインが使用される前に一時 <code>admin</code> としてログインできない場合には、次のコマンドを実行することにより、他の誰かが前述の操作を実行していないか確認してください。</p> <pre>showuser -l</pre>
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーアドミニストレーションガイド』	5-1 ページ	<p>「監査について」の節。「監査ファイルツール」の節の終わりに次の注を追加します。</p> <p>注 - この章ではアーカイブされたログファイルを設定アップする方法について説明します。管理者とサービスプロバイダーは、SP Security (SUNWspec) Package を使用することにより、これらのファイルを表示することができます。使用中のサーバーにアーカイブされた XSCF 監査ログファイルを表示するには、<code>viewauditapp(8)</code> および <code>mergeaudit(8)</code> オフプラットフォーム監査ファイルビューアを使用します。</p>
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF リファレンスマニュアル』	<code>adduser(8)</code> マニュアルページ	<p>ユーザー名の長さは最大 31 文字です。<code>adduser(8)</code> のマニュアルページには、誤ってユーザー名の長さは最大 32 文字と記述されています。</p>

表 9 ソフトウェアドキュメントの変更予定 (3 / 3)

ドキュメント	ページ	変更内容
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF リファレンス マニュアル』	sendbreak(8) マニュアルページ	sendbreak(8) コマンドは、オペレータパネルのモードスイッチが locked に設定されているときに、ドメインモードが on に設定されていると機能しません。詳細は、setdomainmode(8) のマニュアルページを参照してください。
『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF リファレンス マニュアル』	viewaudit(8) マニュアルページ	viewaudit(8) のマニュアルページに示されている使用例 5 および 6 の出力例が異なります。

ソフトウェアの追加手順

ここでは、このドキュメントで前述したいくつかの回避方法を実現するための手順を説明します。

WAN ブートサーバーからの起動

WAN ブートインストール方法を使用すると、HTTP を使用して広域ネットワーク (WAN) 上でソフトウェアを起動およびインストールすることができます。WAN ブートサーバーから Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーをブートできるようにするには、適切な wanboot 実行可能ファイルをインストールして、必要なハードウェアをサポートできるようにする必要があります。

WAN ブートサーバーの詳細は、使用している Solaris 10 OS の『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。Solaris 10 OS のドキュメントは次のサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

wanboot 実行可能ファイルをアップグレードしないと、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーでパニックが発生し、次のようなメッセージが表示されません。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

システム内の縮退メモリーの識別

▼ システム内の縮退メモリーを識別する

- XSCF にログインして、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showstatus
```

メモリーボード #5 上の DIMM 番号 0A のメモリーが縮退された例を次に示します。

```
XSCF> showstatus
  MBU_B Status:Normal;
    MEMB#5 Status:Normal;
*      MEM#0A Status:Degraded;
```

システムボード上の異なるメモリーサイズの識別

ドメイン内に異なるメモリーサイズのシステムボードが含まれているかどうかを確認する場合は、次のいずれかのコマンドを使用して、メモリーサイズをリスト表示させることができます。

- XSCF 上で showdevices コマンドを実行する
- ドメイン上で prttdiag コマンドを実行する

▼ showdevices コマンドを使用する

- XSCF にログインして、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

showdevices -d コマンドの出力の例を、次に示します。0 は *domain_id* です。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----

```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	65536	2402	0x0000000000000000	131072			
00	01-0	16384	0	0x000003c000000000	131072			
00	01-1	16384	0	0x0000038000000000	131072			
00	01-2	16384	0	0x0000034000000000	131072			
00	01-3	16384	0	0x0000030000000000	131072			

```
...
```

この例では、システムボード 00-0 は 64G バイトのメモリーを搭載し、他のシステムボードは 16G バイトのメモリーを搭載していることが示されています。

▼ prtdiag コマンドを使用してメモリーサイズを識別する

- ドメイン上で、prtdiag コマンドを実行します。

```
# prtdiag
```

prtdiag コマンドの出力例を、次に示します。

```
# prtdiag
...

===== Memory Configuration =====

Memory Available      Memory      DIMM      # of      Mirror Interleave
LSB   Group   Size          Status     Size     DIMMs Mode Factor
-----
 00   A       32768MB      okay      2048MB   16 no    8-way
 00   B       32768MB      okay      2048MB   16 no    8-way
 01   A       8192MB       okay      2048MB   4 no    2-way
 01   B       8192MB       okay      2048MB   4 no    2-way
 02   A       8192MB       okay      2048MB   4 no    2-way
 02   B       8192MB       okay      2048MB   4 no    2-way
 03   A       8192MB       okay      2048MB   4 no    2-way
 03   B       8192MB       okay      2048MB   4 no    2-way
 04   A       8192MB       okay      2048MB   4 no    2-way
 04   B       8192MB       okay      2048MB   4 no    2-way
...

```

この例は、さまざまなメモリーサイズを示しています。

ターゲットボードの永続メモリーの識別

▼ ターゲットボードの永続メモリーを識別する

- XSCF にログインして、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

showdevices -d コマンドの出力の例を、次に示します。0 は domain_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0
```

```
...
```

```
Memory:
```

```
-----
```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	65536	2402	0x0000000000000000	131072			
00	01-0	16384	0	0x000003c000000000	131072			
00	01-1	16384	0	0x0000038000000000	131072			
00	01-2	16384	0	0x0000034000000000	131072			
00	01-3	16384	0	0x0000030000000000	131072			

```
...
```

4 列めの perm mem MB のエントリの値がゼロ以外の場合、永続メモリーが存在することを示します。

この例は、2402M バイトの永続メモリーが 00-0 にあることを示しています。

ボードに永続メモリーがある場合、deleteboard コマンドまたは moveboard コマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

サーバーへの SPARC64 VII プロセッサの追加 – 保守担当者のみ

注 – SPARC64 VII プロセッサのサーバーへの取り付けは、認定された保守担当者が行う必要があります。

この節では、SPARC64 VII プロセッサを SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーに取り付ける手順について説明します。

- 27 ページの「新しい SPARC64 VII CPU モジュールを新しいドメインとして追加する」
 - 30 ページの「既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサの追加」
 - 30 ページの「既存のドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する準備をする」
 - 32 ページの「SPARC64 VI で構成されているドメインに、新しい SPARC64 VII CPU モジュールを追加する」
 - 34 ページの「既存のドメインで SPARC64 VI CPU モジュールを SPARC64 VII にアップグレードする」
-

注 – ファームウェアを XCP 1071 にアップグレードする前に、5 ページの「XCP 1071 へのアップグレード」を参照してください。



注意 – SPARC 64 VII プロセッサをシャーシに挿入する前に、XCP ファームウェアおよび Solaris のアップグレードを完了しておく必要があります。

ドメイン内でプロセッサを組み合わせて構成する方法の詳細は、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』の 2.2.13 節「ドメインモード設定」を参照してください。特に、「SPARC64 VI および SPARC64 VII プロセッサと CPU 動作モード」の節を参照してください。

▼ 新しい SPARC64 VII CPU モジュールを新しいドメインとして追加する

注 – 新しいドメインに Solaris 10 8/07 をインストールする場合は、インストールサーバー上のパッチ適用済みのイメージからインストールする必要があります。手順 20 を参照してください。

1. `platadm` 権限を持つアカウントで、XSCF にログインします。
2. `showstatus(8)` コマンドを使用して、現在 `Faulted` または `Deconfigured` の状態の FRU がないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
No failures found in System Initialization.
```

3. すべてのドメインの電源を切ります。

```
XSCF> poweroff -a
```

4. すべてのドメインが停止していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

5. オペレータパネルのキー位置を `Locked` から `Service` に変更します。
6. XSCF スナップショットを収集して、アップグレードを実行する前にシステム状態を保存します。

アップグレード手順の実行中に問題が発生した場合に、システム状態のスナップショットが役立つことがあります。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

7. XCP のバージョンを 1071 に更新します。
ファームウェアを XCP 1071 に更新する前に、5 ページの「XCP 1071 へのアップグレード」を参照してください。ファームウェアの更新手順については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

8. サーバーに CPU モジュール (CPUM) を取り付けます。

手順については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーサービスマニユアル』の第 12 章「CPU モジュールの交換」を参照してください。この手順には、サーバー全体の電源切断も含まれています。



注意 – CPU モジュールを取り付けたあと、電源ケーブルを電源装置にふたたび接続する必要があります。

9. `platadm` または `fieldeng` 権限を持つアカウントを使用して、ふたたび XSCF にログインします。
10. `testsb(8)` コマンドを使用して、新しく取り付けた CPU モジュールの初期診断を実行します。
- 次に、SPARC Enterprise M5000 サーバーに PSB#01 を追加したあとのテストの例を示します。

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start. Continue? [y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test Fault
-----
01 Passed Normal
```

11. `showhardconf(8)` コマンドを使用して、取り付けた CPU モジュールがサーバーによって認識されていることと、エラーを示すアスタリスク (*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

12. `showlogs(8)` および `showstatus(8)` コマンドを使用して、異常な状態が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

13. オペレータパネルのキー位置を Service から Locked に変更します。
14. 既存のドメインの電源を入れます。

```
XSCF> poweron -a
```

15. 追加した CPU モジュールに対して次の設定を行います。

- 追加した CPU モジュールに対して XSB を設定します。
- ドメインを設定します。
- ドメイン上の CPU 動作モードを設定します。

これらの設定については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』の第 2 章「XSCF 使用のためのセットアップ」を参照してください。

16. `setdomainmode(8)` コマンドを使用して、ドメインの自動起動機能を無効にします。

詳細は、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』および `setdomainmode(8)` のマニュアルページを参照してください。

17. 新しいドメインの電源を入れます。

```
XSCF> poweron -d domain_id
```

18. 対象とするドメインが正常に起動していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

19. `showlogs(8)` および `showstatus(8)` コマンドを使用して、異常な状態が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

20. SPARC64 VII プロセッサをサポートするバージョンの Solaris OS をインストールします。

サポートされているソフトウェアのバージョンについては、[2 ページの「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」](#)を参照してください。

新しいドメインに Solaris 10 8/07 をインストールする場合は、インストールサーバー上のパッチ適用済みのイメージからインストールする必要があります。SPARC64 VII プロセッサで Solaris 10 8/07 を実行するために必要なパッチについては、[3 ページの「Solaris 10 8/07 と SPARC64 VII CPU を使用する場合は必須パッチ」](#)を参照してください。ネットワークベースのインストールについては、『Solaris 10 8/07 インストールガイド (ネットワークインストール)』(Part No. 820-1901) を参照してください。

21. `setdomainmode(8)` コマンドを使用して、ドメインの自動起動機能を有効にします。

自動起動機能は、ドメインを再起動すると適用されます。詳細は、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』および `setdomainmode(8)` のマニュアルページを参照してください。

既存のドメインへの SPARC64 VII プロセッサの追加

既存のドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する場合は、次の手順を実行する必要があります。

1. 30 ページの「既存のドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する準備をする」
2. 取り付けの目的に応じて、次の手順のいずれかを選択します。
 - 32 ページの「SPARC64 VI で構成されているドメインに、新しい SPARC64 VII CPU モジュールを追加する」、または
 - 34 ページの「既存のドメインで SPARC64 VI CPU モジュールを SPARC64 VII にアップグレードする」

▼ 既存のドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する準備をする

1. 必要に応じて、SPARC64 VII プロセッサをサポートするバージョンの Solaris OS にアップグレードします。

サポートされているソフトウェアのバージョンについては、2 ページの「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」を参照してください。すべての必須パッチを適用します。
2. `platadm` 権限を持つアカウントで、XSCF にログインします。
3. `showstatus(8)` コマンドを使用して、現在 `Faulted` または `Deconfigured` の状態の FRU がないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
No failures found in System Initialization.
```

4. すべてのドメインの電源を切ります。

```
XSCF> poweroff -a
```

5. ドメインの電源が切断されたことを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

6. オペレータパネルのキー位置を Locked から Service に変更します。
7. XSCF スナップショットを収集して、アップグレードを実行する前にシステム状態を保存します。
アップグレード手順の実行中に問題が発生した場合に、システム状態のスナップショットが役立つことがあります。

```
XSCF> snapshot -t user@host:directory
```

8. XCP のバージョンを 1071 に更新します。
ファームウェアを XCP 1071 に更新する前に、[5 ページの「XCP 1071 へのアップグレード」](#)を参照してください。ファームウェアの更新手順については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。
9. platadm または fieldeng 権限を持つアカウントを使用して、ふたたび XSCF にログインします。
10. すべてのドメインの電源を入れ、OpenBoot PROM ファームウェアを適用します。

```
XSCF> poweron -a
```

ok プロンプトが表示されます。Solaris OS を起動する必要はありません。

11. version コマンドを使用して、更新後の OpenBoot PROM のバージョンを確認します。
XCP 1071 に対応する OpenBoot PROM のバージョンは 02.03.0000 です。出力は次のようになるはずです。

```
XSCF> version -c cmu -v

DomainID 00 : 02.02.0000
DomainID 01 : 02.02.0000
DomainID 02 : 02.03.0000
DomainID 03 : 02.03.0000
...
DomainID 15 : 02.02.0000

XSB#00-0 : 02.02.0000 (Current), 01.01.0000 (Reserve)
```

```
XSB#00-1 : 02.02.0000 (Current), 01.01.0000 (Reserve)
XSB#00-2 : 02.02.0000 (Current), 01.01.0000 (Reserve)
XSB#00-3 : 02.02.0000 (Current), 02.01.0000 (Reserve)
XSB#01-0 : 02.02.0000 (Reserve), 02.03.0000 (Current)
XSB#01-1 : 02.02.0000 (Reserve), 02.03.0000 (Current)
XSB#01-2 : 02.02.0000 (Reserve), 02.03.0000 (Current)
XSB#01-3 : 02.02.0000 (Reserve), 02.03.0000 (Current)
...
```

12. すべてのドメインの電源を切ります。

```
XSCF> poweroff -a
```

13. 次に示す適切な取り付け手順に進みます。

- a. 新しい SPARC64 VII 搭載 CPU モジュールを SPARC64 VI プロセッサで構成されているドメインに追加する場合は、[32 ページの「SPARC64 VI で構成されているドメインに、新しい SPARC64 VII CPU モジュールを追加する」](#)に進みます。
- b. 既存のドメイン内の既存の SPARC64 VI CPU モジュールを SPARC64 VII プロセッサにアップグレードする場合は、[34 ページの「既存のドメインで SPARC64 VI CPU モジュールを SPARC64 VII にアップグレードする」](#)に進みます。

▼ SPARC64 VI で構成されているドメインに、新しい SPARC64 VII CPU モジュールを追加する

SPARC64 VII プロセッサを搭載した新しい CPUM を、すでに SPARC64 プロセッサで構成されている既存のドメインに追加する場合は、この手順を使用します。

1. サーバーに CPUM を取り付けます。

手順については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーサービスマニュアル』の第 12 章「CPU モジュールの交換」を参照してください。この手順には、サーバー全体の電源切断も含まれています。



注意 – CPU モジュールを取り付けたあと、電源ケーブルを電源装置にふたたび接続する必要があります。

2. `platadm` または `fieldeng` 権限を持つアカウントを使用して、ふたたび XSCF にログインします。

- tests**sb**(8) コマンドを使用して、新しく取り付けられた CPU モジュールの初期診断を実行します。

次に、SPARC Enterprise M5000 サーバーに PSB#01 を追加したあとのテストの例を示します。

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start. Continue? [y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test Fault
-----
01 Passed Normal
```

- showhardconf(8) コマンドを使用して、取り付けられた CPU モジュールがサーバーによって認識されていることと、エラーを示すアスタリスク (*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

- showlogs(8) および showstatus(8) コマンドを使用して、異常な状態が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

- オペレータパネルのキー位置を Service から Locked に変更します。
- CPU モジュールに対して次の設定を行います。

- XSB を設定します。
- LSB を設定します。
- ドメインに XSB を追加します。
- ドメイン上の CPU 動作モードを設定します。

これらの設定については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』の第 2 章「XSCF 使用のためのセットアップ」を参照してください。

- すべてのドメインの電源を入れます。

```
XSCF> poweron -a
```

9. すべてのドメインが正常に起動していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

10. showlogs(8) および showstatus(8) コマンドを使用して、異常な状態が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v
XSCF> showstatus
```

▼ 既存のドメインで SPARC64 VI CPU モジュールを SPARC64 VII にアップグレードする

1. SPARC64 VI CPU モジュールを SPARC64 VII CPU モジュールと交換します。

手順については、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーサービスマニュアル』の第 12 章「CPU モジュールの交換」を参照してください。この手順には、サーバー全体の電源切断も含まれています。



注意 – CPU モジュールを取り付けたあと、電源ケーブルを電源装置にふたたび接続する必要があります。

2. platadm または fieldeng 権限を持つアカウントを使用して、ふたたび XSCF にログインします。
3. testsb(8) コマンドを使用して、新しく取り付けた CPU モジュールの初期診断を実行します。
次に、SPARC Enterprise M5000 サーバーに PSB#01 を追加したあとのテストの例を示します。

```
XSCF> testsb 01
Initial diagnosis is about to start. Continue? [y|n] : y
Initial diagnosis is executing.
Initial diagnosis has completed.
XSB Test Fault
-----
01 Passed Normal
```

4. showhardconf(8) コマンドを使用して、取り付けた CPU モジュールがサーバーによって認識されていることと、エラーを示すアスタリスク (*) が表示されていないことを確認します。

```
XSCF> showhardconf -M
```

5. showlogs(8) および showstatus(8) コマンドを使用して、異常な状態が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

6. オペレータパネルのキー位置を Service から Locked に変更します。
7. ドメインの CPU 動作モードを設定し、確認します。
詳細は、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー XSCF ユーザーズガイド』の第 2 章「XSCF 使用のためのセットアップ」を参照してください。
8. すべてのドメインの電源を入れます。

```
XSCF> poweron -a
```

9. 対象とするドメインが正常に起動していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

10. showlogs(8) および showstatus(8) コマンドを使用して、異常な状態が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

